

図書館 ウォーカー2

旅のついでに図書館へ

オラシオ



図書館ウォーカーのトリセツ

はじめまして。または、再びお目にかかります。

本書は2023年1月に発売された「図書館ウォーカー 旅のついでに図書館へ」の続編だ。ここでは「まえがき」に代えて、本書の取り扱い説明をしたい。

まず、本書が属するジャンルは大ざっぱに言うと「旅エッセイ」だ。図書館そのものについての記述はテキスト全体の4分の1にも満たない。時にはほとんど図書館に触れない回もある。また、旅エッセイを自称しつつも旅行記的な内容にとどまらず、主に前半に広義のエッセイのように「よもやま話」を展開していることも多い。落語で言うところの「マクラ」のようなものとお受け取りいただければさいわいだ。本書でつづられているのは各都道府県・計62の「図書館をめぐる旅」だが、この「めぐる」は単に図書館巡りというだけでなく「図書館の内も外も含めたあれこれに思いめぐらせる旅」ということだと思っている。寝る前のひまつぶしでも知らない図書館の情報収集でも、お好きなペース、目的でお読みください。

とは言え、本書を開くことが「旅の入口」になることも期待している。旅情を感じていただけるように旅のさなかに見た景色などの写真をオールカラーで掲載し、自分で訪ねてみたくなった方のために公共交通の情報を可能な限り詳細に記した。一方で、図書館内の写真は1枚もないのでご注意ください。私は元・図書館員なので「館内撮影をしたい」という人への対応が難しいのを知っている。また館内の様子は写真の形に切り取ると意外にどこも代わり映えせず、現場の方をわざわざまで撮らなければならないものだとは思えない、というのが私の考えだ。とりあげた図書館の中がどうしても気になる、という方はぜひ実際に訪れて、その空間のあり方や雰囲気を感じてみて欲しい。

本書では5つの書き下ろしコンテンツをご用意した。まず、長い間あこがれた熊本市天草市の御所浦図書館への旅を他館と同じ形でつづった。4つのコラム「路線バスはオホーツク沿岸をゆく」では訪問100館を超えた北海道内図書館の中からとっておきの旅を、「ソフトクリーム津々浦々」ではソフトクリームをはじめとしたご当地グルメの数々をご紹介。「図書館ウォーカーって、何を見てるの?」ではメインテキストでは不足しがちな図書館内の見どころについて触れ、「図書館に行くなら、ぜひ公共交通で」には公共交通旅ならではのお楽しみを挙げた。いよいよ本編のはじまりだ。今度もまた、言わせてください。

さあみなさん、旅のついでに図書館へ行ってみませんか?

図書館ウォーカーのトリセツ……………002

【北海道】

大空町女満別図書館……………008
釧路市中央図書館……………011
泊村公民館図書室……………014
中川町中央公民館図書室……………017
根室市図書館……………020

コラム 01

路線バスはオホーツク沿岸をゆく……………023

【東北】

大間町北通り総合文化センター図書室（青森県）……………028
十和田市民図書館（青森県）……………031
弘前市立弘前図書館（青森県）……………034
山田町立図書館（岩手県）……………037

【中部】

出雲崎図書館本館（新潟県）……………088
上越市立直江津図書館（新潟県）……………091
高岡市立中央図書館（富山県）……………094
羽咋市立図書館（石川県）……………097
勝山市立図書館（福井県）……………100
身延町下部公民館図書室（山梨県）……………103
白馬村図書館（長野県）……………106
岐阜市立図書館分館（岐阜県）……………109
袋井市立袋井図書館（静岡県）……………112
名古屋市中村図書館（愛知県）……………115
亀山市立図書館（三重県）……………118

【近畿】

長浜市立長浜図書館（滋賀県）……………122
京丹波町図書館和知分館（京都府）……………125
豊中市立蛍池図書館（大阪府）……………128
豊岡市立図書館城崎分館（兵庫県）……………131

気仙沼市唐桑コミュニティ図書館（宮城県）……………040
秋田市立土崎図書館（秋田県）……………043
上山市立図書館（山形県）……………046
酒田市立中央図書館（旧）（山形県）……………049
会津川口駅只見線駅文庫（福島県）……………052
南相馬市立中央図書館（福島県）……………055

コラム 02

ソフトクリーム津々浦々……………058

【関東】

北茨城市立図書館（茨城県）……………062
佐野市立図書館（栃木県）……………065
高崎市立中央図書館（群馬県）……………068
美里町図書館 森の図書館（埼玉県）……………071
TRC八千代中央図書館（千葉県）……………074
目黒区立八雲中央図書館（東京都）……………077
大磯町立図書館（神奈川県）……………080

コラム 03

図書館ウォーカーって、何を見ているの？……………083

【中国・四国】

西宮市立鳴尾図書館（兵庫県）……………134
大和郡山市立図書館（奈良県）……………137
湯浅町立図書館（和歌山県）……………140
琴浦町図書館（鳥取県）……………144
益田市立図書館（島根県）……………147
津山市立図書館（岡山県）……………150
呉市倉橋図書館（広島県）……………153
阿武町町民センター図書ルーム（山口県）……………156
海陽町立穴喰図書館（徳島県）……………159
観音寺市立中央図書館（香川県）……………162
今治市立大三島図書館（愛媛県）……………165
オーテピア高知図書館（高知県）……………168
四万十市立図書館（高知県）……………171

コラム 04

図書館に行くなら、ぜひ公共交通で……………174

近畿



九州・沖縄

北九州市立若松図書館 (福岡県) 178

太良町立大橋記念図書館 (佐賀県) 181

雲仙市図書館 (長崎県) 184

天草市立御所浦図書館 (熊本県) 187

水俣市立図書館 (熊本県) 190

杵築市立図書館本館 (大分県) 193

日田市立淡窓図書館 (大分県) 196

串間市立図書館 (宮崎県) 199

鹿児島市桜島公民館図書室 (鹿児島県) 202

日置市立中央図書館 (鹿児島県) 205

糸満市立中央図書館 (沖縄県) 208

うるま市立石川図書館 (沖縄県) 211

図書館ウォーカーは「孤独のグルメ」になれるか? 214

図書館Index 217

〈注記〉

- ・本書に掲載されている開館時間、休館日などのデータは2024年2月現在のもので、天候、社会情勢等により急遽変更される場合がありますので、事前にご確認ください。
- ・各ページのデータ項目にある記号は、
 交||公共交通を使ったアクセス情報、
 住||住所、開||開館時間、休||休館日、
 近||近くのおすすめスポットです。
 所要時間は目安、また休館日は祝日・休日と重なるときは開館し、翌日休館の場合が多くなっていますので、ご注意ください。

湯浅町立図書館 (和歌山県)

唐突だが、私と同じように一人旅がお好きという方にご質問。旅先での晩御飯、どうされていますか。小さな地方の街は夜に一人で気軽に食事できるお店が意外と少なく、けっこう苦慮している。ブームを作った吉田類さんや太田和彦さんみたいに、地元のおいしい料理やお酒を出すいい感じの居酒屋に行けばいいじゃん、という声もある。

ただ、私は一人酒をしない。酒はかなり強いほうだと思いが飲めるだけで好きなわけではない。なので居酒屋は選択肢にならない。またお店のほうでもお酒が最も利益率が高いと聞いたことがあるので、私のような単価の低い客は迷惑だろう。

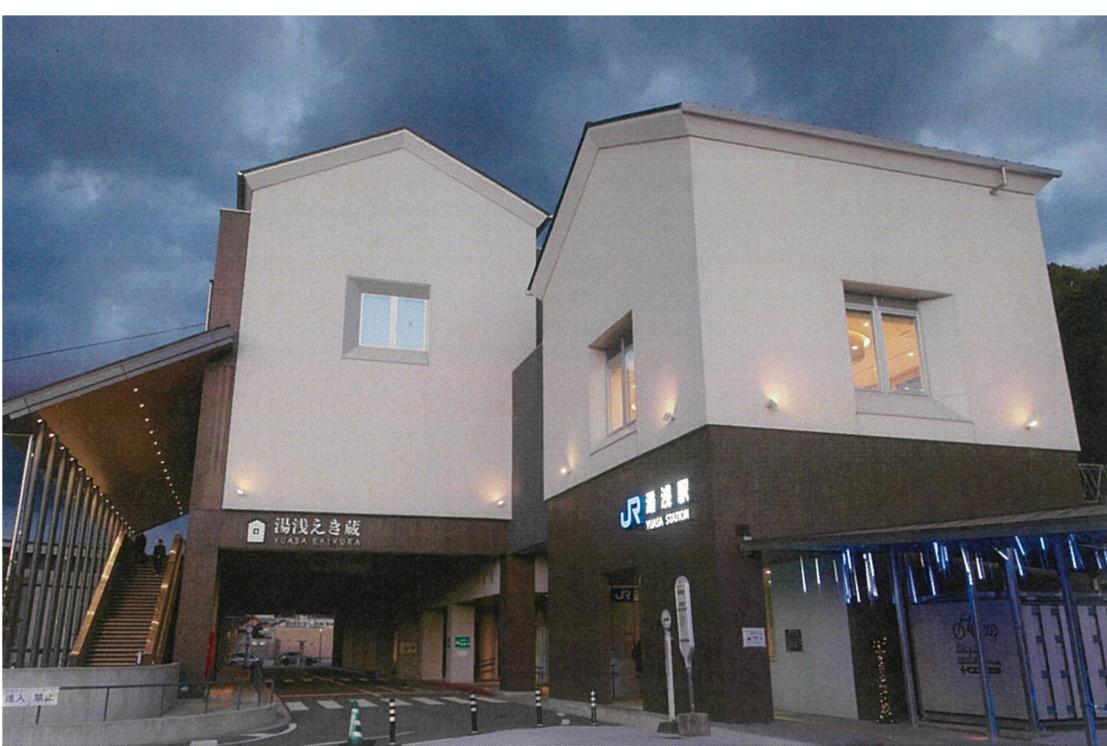
そこで便利なのがラーメン屋だ。クオリティや入

りやすさに差はあれど、小さな街でもだいたい軒くらはある。酒を飲まないおひとり様でも大丈夫。でもまだ問題が。それはスープの味。私は日本のラーメンの種類でおそらく一番多いであろう醤油味があり好きではないのだ。担々麺を頂点に、塩、味噌、とんこつ順に好みで、醤油ラーメンはよっぽどでなければ食べない。

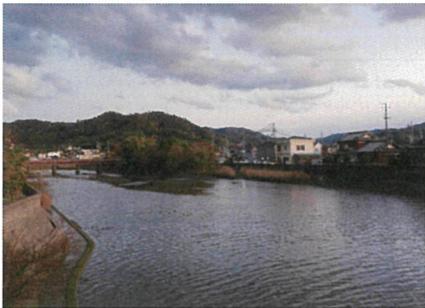
つい先日その「醤油」のはじまりの地として知られる和歌山県湯浅町の図書館を訪ねてきた。と言っても図書館ウオーカー旅の目的地にここを選んだのは偶然だ。この時、私は三重県側から紀伊半島をぐるりとまわって大阪の実家に帰る旅の途中だった。

しかしどうやら青森から冬將軍を連れてきてしまったらしい。青森在住の私も辟易するほどの寒風が吹きすさび、そのかわりに澄み切った晴れ空でJR紀勢本線車窓からの海の眺めがすばらしかった。だが冬の日の入りは早く気がつけば夕暮れが迫りはじめている。

御坊市ごぼう以北の自治体の図書館にはいくつか訪問候



レストランとして生まれ変わった旧湯浅駅舎



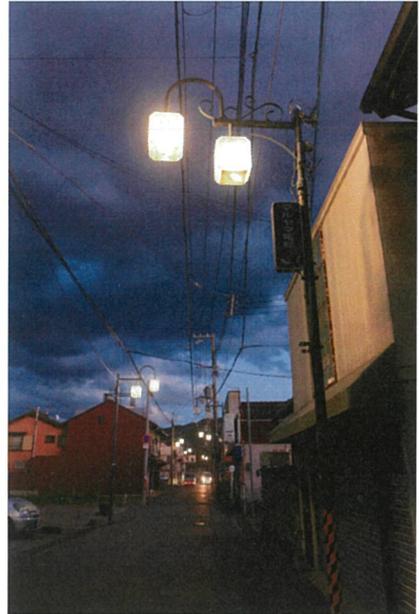
町内を流れる広川の眺め

補があったが、日没のタイミンと駅からのアクセスの関係で湯浅町立図書館をセレクトした。そう、ここは「駅図書館プレミアム」なのだ。読者の皆様には耳タコならぬ目タコかもだが念のためご説明しておく、鉄道駅舎と一体化した図書館を指す自作の分類名だ。

図書館や駅が併設された「湯浅えき蔵」はカフェや観光交流センターなどもあり、館内には学生服を着た若者を中心に多くの利用者がいた。建物は外観も内装も醤油の蔵や樽を模したところが目立ち、さらにすぐ横には旧湯浅駅舎がリノベされレストランとして活躍中だ。

真っ暗になる前にささつと街を散策。住宅を含め昭和レトロな建物がほとんどで一見時間が止まった場所に見えるが、駅での乗降客も多くベッドタウンとしての役割を担っているとわかる。少し足を延ばせば海や保存地区になっている歴史的街並み、城の形の温泉などがあるようだ。今度はゆっくり歩いて、ご当地醤油ラーメンなどあったら食べてみたいな。

心が落ち着くレトロな街並み



- 交 JR紀勢本線湯浅駅併設
- 住 〒643-0004 和歌山県有田郡湯浅町
湯浅1075-9 湯浅えき蔵2階
- 開 9時～21時
- 休 最終金曜、年末年始
- 近 広橋から見た海と川、cafe589

著者略歴

オラシオ

ライター、エッセイスト。大阪育ち青森市在住。
2019年11月から陸奥新報で「図書館ウォーカー」を連載中。
旅先で訪ねた図書館は550館以上。公共図書館員として8年
間勤務経験あり。

著書に「図書館ウォーカー—旅のついでに図書館へ」(2023)。
音楽の分野ではコンピレーションCD「ポーランド・ピアノ
ズム」「ポーランド・リリズム」(CORE PORT) 選曲解説
の他、ライナー執筆など多数。

note フォロワー 3.5万超 (<https://note.com/horacio>)

図書館ウォーカー 2

—旅のついでに図書館へ

2024年5月25日 第1刷発行

著者 / オラシオ
発行者 / 山下浩
発行 / 日外アソシエーツ株式会社

〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 鈴中ビル大森アネックス
電話 (03)3763-5241 (代表) FAX(03)3764-0845
URL <https://www.nichigai.co.jp/>

組版処理 / 株式会社クリエイティブ・コンセプト
装丁・中扉イラスト / 齊藤一 絵
コラムイラスト / 大崎メグミ
印刷・製本 / シナノ印刷株式会社

©Horacio 2024

不許複製・禁無断転載

<落丁・乱丁本はお取り替えいたします>

ISBN978-4-8169-3008-9

(日本製紙 b7 トラネクト使用)

Printed in Japan, 2024